

2015.10.25 聖別会

IMMANUEL

インマヌエル
中目黒キリスト教会
聖別会マンスリー



2015年

< 聖化の豊かさを味わう > 「聖化の説教」

「聖名を呼ぶものの神」

ウエスレアンホーリネス日田教会・辛島道也牧師

「モーセとアロンは主の祭司の中に、サムエルは御名を呼ぶ者の中にいた。彼らは主を呼び、主は彼らに答えられた。」(詩篇 99:6)

はじめに

聖書は、サムエルの生涯を通して「聖名を呼ぶもの」とはどんな人が、そして、「聖名を呼ぶ者に答えられる主」がどんな方かを示している。

1. 御名を呼ぶ者を招く神 主の僕として

- ・少年サムエルは、その名を主によって呼ばれた(1サムエル 3:10)。呼ばれる前から、サムエルは人間の主人である祭司エリに仕えつつ、主に仕えていた(3:1)。主に仕えきっていたからこそ、主の御声に接することができた。
- ・主に仕えるとは、神を信じること、また、神との和解を齎したキリストを信じることから始まる。主の御声を待ち望みつつ日々歩もう。

2. 御名を呼ぶ者の悲しみを担う主 主に従う者として

- ・主に従わなかったサウル王に対して、サムエルは、従うことの大切さを語った(15:22、31)。そして、主に従わなかったサウルのために悲しんだ(15:35)。
- ・サウルの不服従の根底には自己顕示欲があった。
- ・心を痛めるサムエルに対して、主もまた心を痛み、その心に沿ってくださった(15:35)。主は人の悲しみと痛みを担うという点で、悔いなき方である(創世記 6:6)。

3 . 神の可能を信じる者

- ・ 著者の開拓時代の苦勞と祈り：思うように伝道できない著者に、主は、思いがけない方法で伝道の道を開かれた。著者の悲しみと苦しみを通して、主は栄光を取ってくださった。
- ・ 人間に不可能なことでも神には可能
- ・ 自分の力で主に従うことに限界を感じていても、主はそれを可能にしてくださる

「自分の不可能に意気消沈するのでもなければ、自分の可能性に留まり続けるのでもなく、神の可能に向かって前進しよう。」